はしがき

本書は、文語文法のなかの**敬語、和歌の修辞**、及び**まぎらわしい語の識別**について、**基本敬語やポイントを確認しながら問題を解き、基礎力を養う**ことを目的としたワークブックです。

編集にあたっては、日栄社版『新・要説文語文法　五訂新版』の準拠問題集としても、あるいは、全く独立した敬語及び識別の基礎問題集としても使うことができるよう配慮してあります。

【本書の特長】

①　基本敬語・識別ポイントの掲載

敬語、和歌の修辞は、各回見開き2ページとし、右ページ上段にその回の**基本敬語**や**修辞**を掲載しました。まぎらわしい語の識別では、適宜**識別ポイント**を掲載しました。問題に当たる際に見直し、確認しながら問題を解けるようにしてあります。

②　基礎力を養う問題文

問題文は、比較的平易で基礎力が養えるものを厳選し、ある程度長めの文章も出題しました。必要に応じてわきに**色刷りで口語訳**をつけ、効果的に学習できるようにしてあります。

③「復習問題」の収録

学習の定着をはかるため、適宜「**復習問題**」を配置し、まとまりのある文章に取り組みながら、既習事項の復習ができるように配慮しました。

本書が、皆さんの古文学習の一助となることを祈っています。

目　次

1　尊敬語1　2
2　尊敬語2　4
3　尊敬語3　6
4　謙譲語1　8
5　謙譲語2　10
6　謙譲語3　12
7　丁寧語・二方面に対する敬語　14
8　復習問題1　16
9　和歌の修辞　18
10　まぎらわしい語の識別1（る・れ）　20
11　まぎらわしい語の識別2（ぬ・ね）　21
12　まぎらわしい語の識別3（に）　22
13　まぎらわしい語の識別4（なむ）　24
14　まぎらわしい語の識別5（なり・なる）　25
15　まぎらわしい語の識別6（たり・たる・けれ）　26
16　まぎらわしい語の識別7（し・しか）　27
17　まぎらわしい語の識別8（らむ）　28
18　まぎらわしい語の識別9（せ・ばや）　29
19　復習問題2　30

1 尊敬語 1

たまふ（給ふ・賜ふ）〈四段活用〉

① 「与ふ」の尊敬語（オ与エニナル）
② 尊敬の補助動詞（オ…ニナル・…ナサル）
＊謙譲語の「給ふ」（下二段活用）→p.12

例 道長が家より帝、后立ち給ふべきものならば、この矢当たれ。（大鏡）
道長の家から帝や后の位にお就きになる（人が現れる）はずのものならば、この矢よ、命中せよ

たぶ（賜ぶ）

① 「与ふ」の尊敬語（オ与エニナル）
② 尊敬の補助動詞（オ…ニナル）

おはす おはします

① 「あり・をり」の尊敬語（イラッシャル）
② 「行く・来」の尊敬語（オ出カケニナル・オイデニナル）
③ 尊敬の補助動詞（…テイラッシャル・オ…ニナル）

例 昔、惟喬親王と申す親王おはしましけり。（伊勢物語）
昔、惟喬親王と申し上げる親王がいらっしゃった

ます・います

① 「あり・をり」の尊敬語（イラッシャル）
② 「行く・来」の尊敬語（オ出カケニナル・オイデニナル）

1 次の各文から尊敬語を一つずつ抜き出しなさい。

(1) 惟喬親王、例の狩りしにおはします供に、（伊勢物語）
例の…いつものように

(2) 子になり給ふべき人なめり。（竹取物語）

(3) かかる道はいかでかいまする。（伊勢物語）
いかでかは…反語

2 傍線部の敬語について、敬意のない動詞を終止形で答えなさい。

(1) 今は昔、小野篁といふ人おはしけり。（宇治拾遺物語）

(2) 葎延ふ賤しき宿も大君のまさむと知らば玉敷かましを（万葉集）
葎延ふ…つる草がはい茂る　大君…天皇

(3) 〔ソノ鯉ヲ〕切りぬべき人なくは、たべ。〔私ガ〕切らん。（徒然草）

3 次の傍線部を口語訳しなさい。

(1) われ朝ごと夕ごとに見る竹の中におはするにて知りぬ。（竹取物語）

(2) 内裏の帝、御衣ぬぎて〔太政大臣ノ子息ニ〕賜ふ。（源氏物語）

(3) 木曾、「さらば。」とて、粟津の松原へぞ駆け給ふ。（平家物語）
駆ける…馬を走らせる

(4) 〔花山天皇ガ〕みそかに花山寺におはしまして、御出家入道せさせたまへりしこそ。（大鏡）
みそかに…こっそりと

(5) 北の方、縫ふやと見に、みそかにいましけり。（落窪物語）
縫うや…縫っているか

(6) この人々、……「むすめを我に賜べ。」と伏し拝み手をすり、のたまへど、（竹取物語）

(7) 御簾を高く上げたれば、〔中宮ハ〕笑はせ給ふ。（枕草子）

4 次の文章は、無実の罪で筑紫に流された右大臣菅原道真の様子を描いたものである。これを読んで、後の問いに答えなさい。

また、かの筑紫にて、〔道真公ガ〕九月九日菊の花を御覧じけるついでに、いまだ京に〔道真公ガ〕①おはしましし時、九月の今宵、内裏にて菊の宴ありしに、この大臣の作らせ②給ひける詩を、帝かしこく③感じ給ひて、御衣賜り④給へりしを、筑紫に持て下らしめ給へりければ、御覧ずるに、いとどその折思し召し出でて、〔詩ヲ〕⑤作らしめ給ひける。（大鏡）
その折に　道真公　たいそう　お着物をいただきなさったのを　持って下向なさっていたので　京でお着物をいただいたときのことを思い出しなさって

(1) 傍線部①・③を口語訳しなさい。
① ③

(2) 傍線部②・④の敬語について、誰に対する敬意を表しているかを答えなさい。
② ④

(3) 傍線部⑤「作らしめ給ひける」を、主語を補って口語訳しなさい。

10 まぎらわしい語の識別 1 る・れ

る

1 四段・ナ変・ラ変動詞の未然形（ア段の音）＋る
⇩ 自発・可能・受身・尊敬の助動詞「る」の終止形

例 洛に帰りて貞徳の門人となつて世に知らる。（四段・未然）（おくのほそ道）
京都に帰って、松永貞徳の門人になって世間に知られる

2 四段動詞の已然形・サ変動詞の未然形（エ段の音）＋る
⇩ 完了の助動詞「り」の連体形

例 男、泣く泣く詠める。（四段・已然）（伊勢物語）
男が、泣きながらよんだ歌

れ

1 四段・ナ変・ラ変動詞の未然形（ア段の音）＋れ
⇩ 自発・可能・受身・尊敬の助動詞「る」の未然形・連用形

例 よくせざらんほどは、なまじひに人に知られじ。（四段・未然）（徒然草）
芸能を身につけようとする場合、うまくできないうちは、うかつに人に知られまい。

2 四段動詞の已然形・サ変動詞の未然形（エ段の音）＋れ
⇩ 完了の助動詞「り」の已然形

例 年ごろ、常の篤しさになりたまへれば、（四段・已然）（源氏物語）
数年来、体調の悪さが普段の病状になっていらっしゃったので、

1 次の傍線部の文法的説明として適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

(1) はじめて、過ぎぬるかたの誤れる事は知らるなれ。（徒然草）
(2) 「花を見て。」と言へるに劣れることかは。（徒然草）
(3) 〔返歌ヲ〕しつべき人もまじれれど、（土佐日記）
(4) 見てけりとだに知られむと思ひて、〔歌ヲ〕書きつく。（蜻蛉日記）

ア 受身・可能・自発・尊敬の助動詞「る」の終止形
イ 完了の助動詞「り」の連体形
ウ 受身・可能・自発・尊敬の助動詞「る」の未然形
エ 完了の助動詞「り」の已然形

(1) ［　　］
(2) ［　　］
(3) ［　　］
(4) ［　　］

2 次の傍線部を文法的に説明しなさい。

(1) 雷にくだかれし松の聳えて立てるが、（雨月物語）

① ［　　］
② ［　　］

(2) 親は、「口惜しう。……。」とぞ、常に嘆かれ侍りし。（紫式部日記）

［　　］

11 まぎらわしい語の識別 2 ぬ・ね

ぬ

1 未然形＋ぬ ⇩ 打消の助動詞「ず」の連体形
ぬ＋体言　ぞ（なむ・や・か）…ぬ。（係り結び）

例 〔舟ガ〕知らぬ（四段・未然）国に吹き寄せられて、（体言）（竹取物語）
舟が知らない国に吹き寄せられて、

2 連用形＋ぬ ⇩ 完了の助動詞「ぬ」の終止形
ぬべし・ぬらむ

＊係り結びがなく「ぬ」で文が終わっている場合は、「ぬ」は終止形なので完了の助動詞。

例 帰りて宮に入らせ給ひぬ。（四段・連用）（伊勢物語）
帰って離宮にお入りになった

ね

1 未然形＋ね ⇩ 打消の助動詞「ず」の已然形
ねど・ねども・ねば　こそ…ね。（係り結び）

例 人、木石にあらねば、（四段・未然）時にとりて物に感ずる事なきにあらず。（徒然草）
人は木や石ではないので、時によって物事に感動することがないことはない

2 連用形＋ね ⇩ 完了の助動詞「ぬ」の命令形
＊命令の文で「ね」が文末にある場合は、完了の助動詞。

例 とく帰りたまひね。いとさうざうし。（四段・連用）（枕草子）
早く帰ってきてください　あなたがいないと　たいそうつまらない

1 次の傍線部の文法的説明として適切なものを後から選び、記号で答えなさい。

(1) 今は渡らせ給ひね。（源氏物語）
(2) さやさやと音するに目さめぬ。（雨月物語）
(3) さらにこそ信じられね。（大鏡）
(4) 幣には御心のいかねば、御船もゆかぬなり。（土佐日記）
御様は、幣（捧げ物）には心満足なさらないので、

ア 打消の助動詞「ず」の連体形
イ 完了の助動詞「ぬ」の終止形
ウ 打消の助動詞「ず」の已然形
エ 完了の助動詞「ぬ」の命令形

(1) ［　　］
(2) ［　　］
(3) ［　　］
(4) ［　　］

2 次の各文の中から、打消の助動詞「ず」を抜き出しなさい。ない場合は、「×」と答えなさい。

(1) 世の中に見えぬ皮衣のさまなれば、これを〔本物〕と思ひ給ひね。（竹取物語）
(2) 秋来ぬと目にはさやかに見えねども（古今集）
(3) 「往ね。いま聞こえむ。」とて、〔手紙ヲ〕懐に引き入れて入りぬ。（枕草子）
さあ、お返事を　書くのあいだ

(1) ［　　］
(2) ［　　］
(3) ［　　］